



『マコはハルモニア・ムンディにのって踊る』(9)「わたしたち」

ロクスひよりやま キャプテン 中井 淳 SJ
(旧下関労働教育センター イエズス会神父)

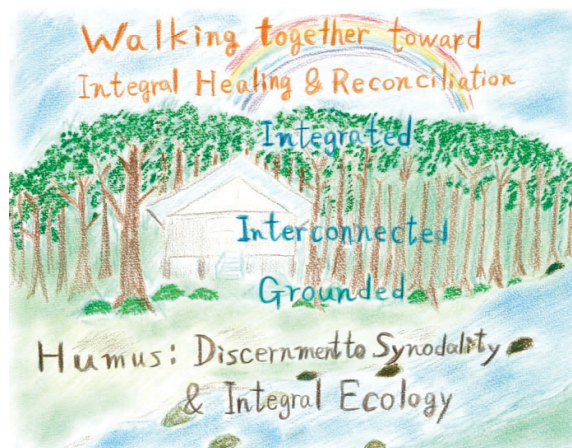
「待降節の黙想会に来てくれた神父さんが教えてくれたんだけど、主の祈りでさ、わたしたちの罪をおゆるしてください、っていう、その。“わたしたち”っていうのが大切なんだって。英語で言うと Our Father っていうから、わたしたちのお父さんへ、って呼びかけているんだよね。あの時から、“わたしたち”っていうのが私のテーマになっているんだよね。」そうメグミがわかちあってくれた。すると、シンコも言う。「そうか、最近の私の祈りと似ているなあ。わたしは、テゼっていう超教派（キリスト教のさまざまな教派の枠を超えた集い）の祈りの集まりの中で“わたしたちを一つにしてください”って祈ったのが心に残って、それを祈ってるんだ。」

月に一度、マコと青年仲間の数名で、瀬川神父の同伴のもと、わかちあいをしている。瀬川神父の修道会の霊性を土台にしている信徒のグループの青年バージョンだ。マコは、仲間たちのわかちあいが一つのテーマで結ばれていることを感じて、その不思議さに感動していた。

瀬川神父が言った。「みんなのわかちあいを聞いていたらさ、一つのイメージを思い出したよ。というか、僕が描いた絵なんだけどさ。前はマコにも僕の代わりに会議で行ってもらったんだけど、フィリピンのミンダナオで、うちの修道会のアイルランド人の神父さんが先住民のための教育施設とエコロジーセンターをしているんだけど、そこにアジアの仲間たちで集まって、僕らがこれから向かっていくビジョンをみんなで語りあおうということになったんだ。その時にシノドスの文書が一つの祈りの材料になったんだけど、そこで言われてるのはさ、関わりを大切にするといい点を大切にすることで、シノダリティとエコロジーは共通していて、お互いを支えあうということだったんだ。そして、仲間たちそれぞれの描くビジョンが一致していたんだよね。それを僕が任されて、最終的に絵にしてみたんだ。」

そう言って、瀬川神父が絵を見せてくれた。ああ、神父さんも同じ想いを共有していたのだ、と実際にその次の会議に行かせてもらって体験したマコは思った。その絵は、フランシスコ教皇が流した川が流れている。シノダリティとエコロジーという川。どんなにこの世界に暗闇が広がっても、でも確かにこの川が流れているのを感じる。大地がこの川によって潤され、豊かな土壌となる。そこに根を張る、私たち一人ひとりの木。でもお互いが関わりをもって、つながっていて、それは森を形成しているのだ。その森は美しいキャノピー（森のプロックリーのような屋根）を描いているのだ。この森という共同体は、一つの共同体となって、世界と人々の癒しという虹に向かって歩いていく。

瀬川神父に同伴してもらいながら、わかちあいを続けてきて、この青年たちの仲間が“わたしたち”になってきていること、一つの舟にのって旅をしているのを感じる。瀬川神父さんが、エコロジーとシノダリティの川を流してくれることで私たちはそこから養分をもらっている。確かにこの川が流れていることを、マコも広島教区の宣教ひろばに参加して、霊における会話を体験した時から感じていた。教皇フランシスコが送った川の流れがここまで届いている、と。「わたしも渇いた大地、癒しを待っている人たちにこの川を流していこう。」マコはそう思ったのだった（つづく）



★カトリック広島教区 ハラスメント相談窓口：広島教区人権擁護デスク★

受付時間 木曜日（祝日を除く）9:00～16:00 電話番号 082-555-1127

メール：desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp

H・Social**H・Social**H・Social**H・Social**H・Social**H・Social

発行 カトリック広島教区 平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスク

TEL：082-221-6613 FAX：082-221-6019 E-Mail info@social-desk.net